

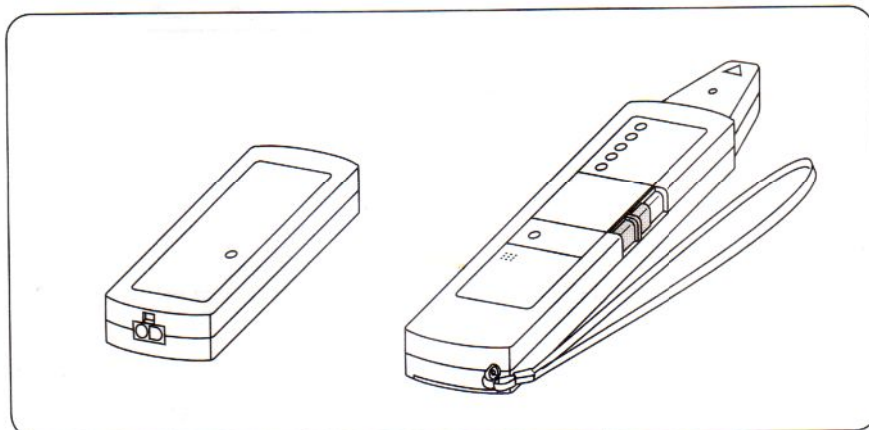
## 取扱説明書

- この説明書は保証書を兼ねております。

保証書付

- ご使用前にこの説明書を必ずお読みの上、正しくお使いください。
- この取扱説明書は必ず保管してください。

## 配線チェッカー BT4100 (セット)



### —— もくじ ——

- ◇安全上のご注意……………P1
- ◇特長……………P2
- ◇各部の名称とはたらき……………P2
- ◇探査方法……………P3
- ◇測定結果(例)……………P8
- ◇仕様……………P8
- ◇アフターサービス……………P9

## ■ 特長

- 100V コンセントに対応するブレーカの探査が、活線状態でできます。
- 壁・地中・金属管内の電気配線経路が、活線状態でできます。
- 壁・地中・金属管内の電気配線経路が、死線状態でできます。

## ■ 各部の名称とはたらき

### 送信器

#### 電源プラグ

- 送信器に使用する電源コードを接続します。

#### 動作表示ランプ

- 動作中点滅します。

### 受信器

#### 電池チェックランプ

#### 電源スイッチ

- 探査時に操作します。

#### ブザー

- 探査信号を受信中鳴ります。

#### 電池収納口 (裏面)

#### 探査部

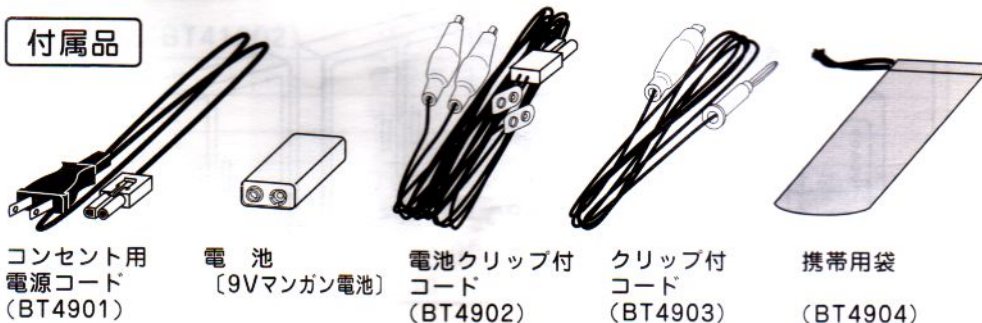
#### 判定用ランプ

- 探査信号を受信中点滅します。

#### 感度切替スイッチ

- 探査内容・信号レベルに応じ切換えします。

### 付属品

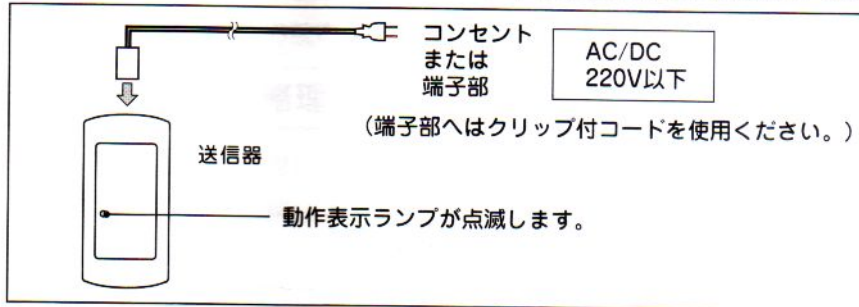


## ■ 探査方法

### 活線状態での分電盤とブレーカの探査

・送信器を接続したコンセント回路などに該当する分電盤および分岐ブレーカなどを活線状態で探査する方法です。

①送信器を改修や点検をしようとするコンセントまたは端子部に接続してください。



②受信器の電源スイッチを押したとき、電池チェックランプが点灯することを確認してください。

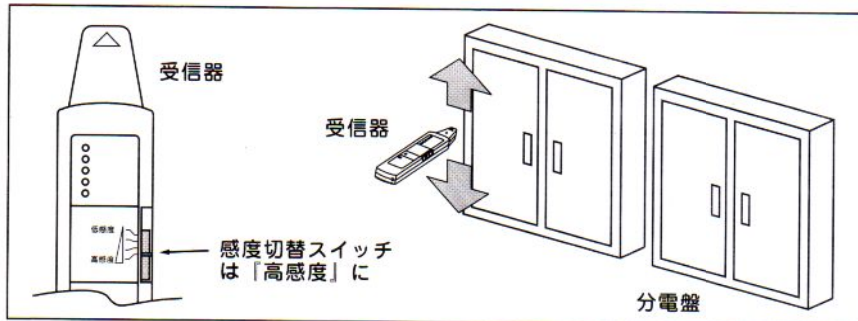
### ● 分電盤の探査

- 探したいブレーカがどの分電盤に収納されているか判らない場合  
感度切替スイッチは『高感度』の位置で測定

測定方法 ● 分電盤扉面のすきまに受信器の探査部を当て、ゆっくり動かしてください。

判定 ● 判定用ランプが数個点滅し、同時にブザー（ピッピッピッ）が鳴った所の分電盤に該当するブレーカが収納されています。

注意 ● ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。  
探査信号とまちがえないようにしてください。  
● 鋼鉄製の分電盤の場合は高周波信号電流による磁束が分電盤の外に出にくいため、判定用ランプの点灯数は少なくなります。  
● 該当する分電盤が複数個の時は、感度を1ランク下げて測定ください。

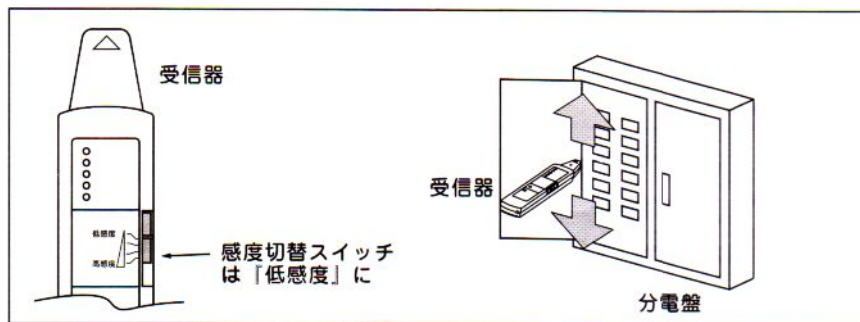


### ●ブレーカの探査（探査回路に対応する分岐ブレーカの探査）

測定方法 ● 分電盤の扉を開け、受信器の探査部をブレーカのハンドル部に順次当ててください。

判定 ● 判定用ランプが最も多く点滅した位置のブレーカが該当のブレーカです。

注意 ● ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。探査信号とまちがえないようにしてください。  
● 該当する近くのブレーカでも該当ブレーカと同等のランプ点灯をする場合があります。最終判定は負荷線に受信器の探査部を当てて確認してください。



### ●負荷線での探査

上記ブレーカの探査で該当ブレーカの判定がしにくい場合、該当ブレーカを下記により最終決定します。

測定方法 ● 分電盤の中蓋・保護カバーを外し、受信器の探査部を該当と思われるブレーカに接続されている電線に順次当ててください。

判定 ● 判定用ランプが最も多く点滅した電線に接続されたブレーカが該当のブレーカです。

注意 ● 活線状態での測定となりますので、充電部には絶対に触れないでください。  
● ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。探査信号とまちがえないようにしてください。  
● 判定用ランプの点滅が2個以下の時は、感度を1ランク上げて測定ください。

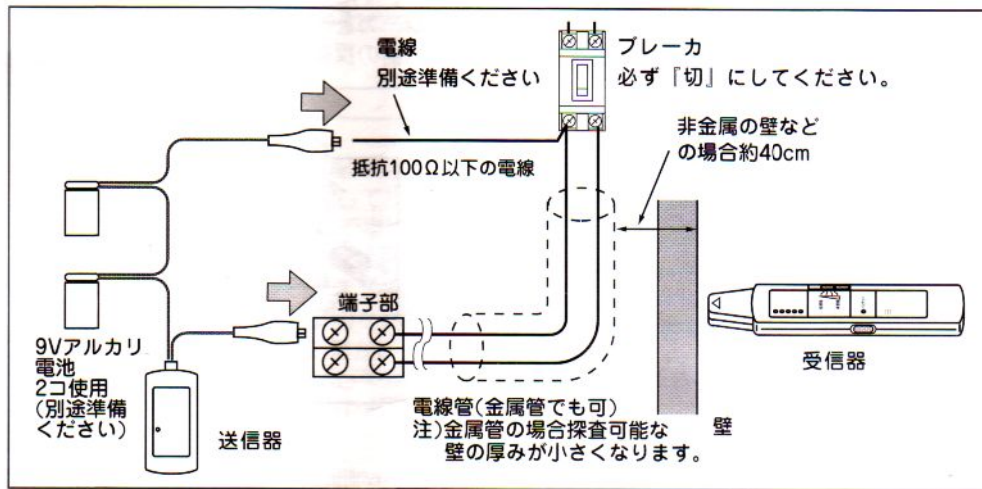
- 該当ブレーカに探査信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探査できません。  
ノイズの発生原因を取除いてから探査してください。
  - ノイズを発生するおもな機器・・・インバータ・コピー機など
- 高力率形蛍光灯など入力側にコンデンサの付いた負荷機器が接続されている回路があると、このコンデンサに反応してしまい、該当ブレーカの特定制ができません。

## 死線状態での配線経路の探査

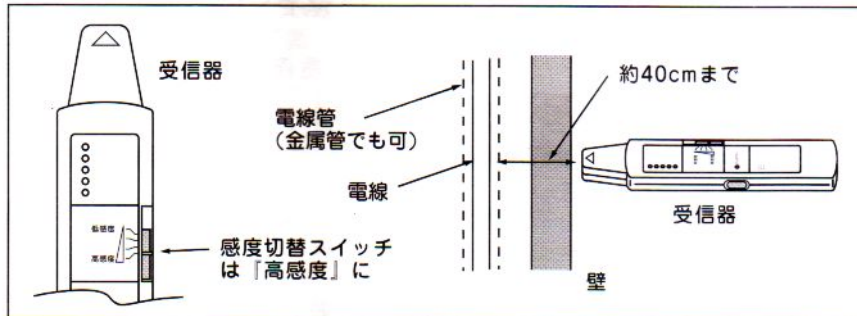
(死線とは、電源が印加されていない状態の線路を言います。)

①探査したい配線が死線であることを確認の上、下図に示す様に接続ください。

- 電池クリップ付コードに9Vアルカリ電池を2個接続し、一方をコンセントまたは負荷端子へ。他方をプレーカの端子へ接続ください。
- この状態で送信器の動作表示ランプが点滅しない時は接続した片方の相を入れ替えてください。
- 電池クリップ付コードの端子とプレーカ端子との接続は0.5mm以上の電線で、長さは100mm以下としてください。



測定方法 ●受信器の感度切替スイッチを『高感度』に設定し、電源スイッチをON(押し)にして電線が埋められていると思われる位置に近づけ、ゆっくりと動かしてください。

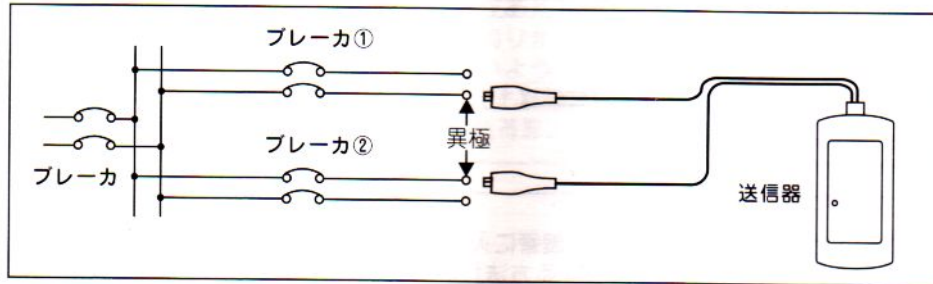


- 判定 ●判定用ランプの点滅数は図のように受信器と平行に電線が配線されている場合に、最も多く点滅します。
- 受信器を回転させながら最も多くのランプが点滅する所を確認しながら探査してください。
- 電線の位置は、左右に移動した時ランプが最も多く点滅した所です。
- 注意 ●ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。探査信号とまちがえないようにしてください。

## 活線状態での配線経路の探査

### ●2回路を使用して探査する方法

- ①送信器を図の様に2回路の異極に接続してください。  
接続した2本の電線に反応します。



- 注 1) 配線経路の①②が近接している時は、探査できません。  
P5『死線状態での配線経路の探査方法』で実施してください。
- 2) ブレーカ①②が漏電ブレーカの場合は、探査信号によってブレーカが動作し、探査できません。  
P5『死線状態での配線経路の探査方法』で実施してください。
- 3) クリップ付のコード長さは、50cmです。不足の時は別途コードを接続してください。

- ②受信器の電源スイッチをスイッチを押した時、電源チェックランプの点灯を確認してください。

測定方法 ● 受信器の感度切替スイッチを『高感度』に設定し、電源スイッチをON（押す）にして電線が埋められていると思われる位置に近づけ、ゆっくりと動かしてください。

判定 ● 受信器を回転させながら最も多くのランプが点滅する所を確認しながら探査してください。  
● 判定用ランプが最も多く点滅した場所に配線があります。

注意 ● ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。  
探査信号とまちがえないようにしてください。

該当ブレーカに探査信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探査できません。

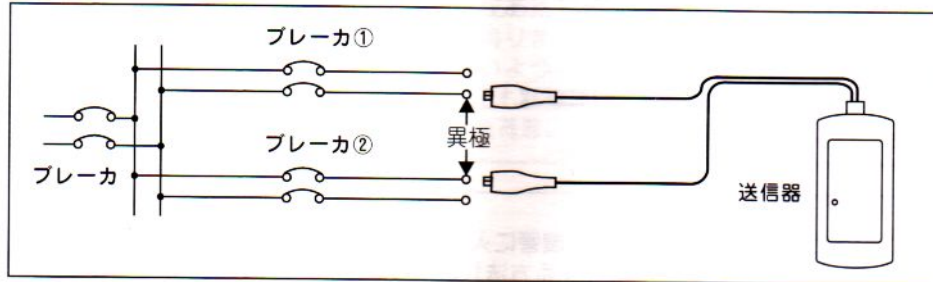
ノイズの発生原因を取除いてから探査してください。

- ノイズを発生するおもな機器……インバータ・コピー機など

## 活線状態での配線経路の探査

### ●2回路を使用して探査する方法

- ①送信器を図の様に2回路の異極に接続してください。  
接続した2本の電線に反応します。



- 注 1) 配線経路の①②が近接している時は、探査できません。  
P5『死線状態での配線経路の探査方法』で実施してください。
- 2) ブレーカ①②が漏電ブレーカの時は、探査信号によってブレーカが動作し、探査できません。  
P5『死線状態での配線経路の探査方法』で実施してください。
- 3) クリップ付のコード長さは、50cmです。不足の時は別途コードを接続してください。

- ②受信器の電源スイッチをスイッチを押した時、電源チェックランプの点灯を確認してください。

測定方法 ● 受信器の感度切替スイッチを『高感度』に設定し、電源スイッチをON（押す）にして電線が埋められていると思われる位置に近づけ、ゆっくりと動かしてください。

判定 ● 受信器を回転させながら最も多くのランプが点滅する所を確認しながら探査してください。  
● 判定用ランプが最も多く点滅した場所に配線があります。

注意 ● ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。  
探査信号とまちがえないようにしてください。

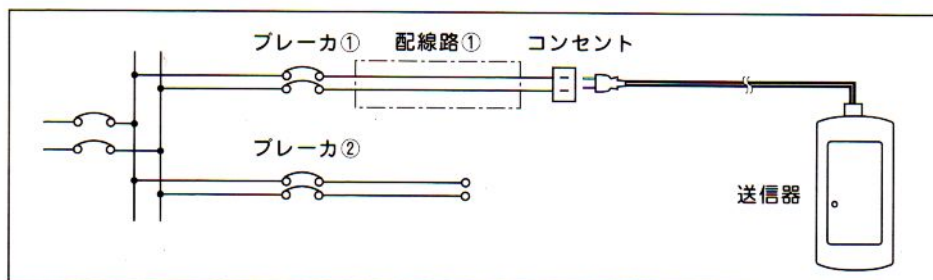
該当ブレーカに探査信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探査できません。

ノイズの発生原因を取除いてから探査してください。

- ノイズを発生するおもな機器……インバータ・コピー機など

## ●1回路のみで探査する方法

①送信器を図の様に接続してください。



- 注 1) 探査しようとする配線路が金属管に入っている時は、探査できません。  
P6『2回路を使用して探査する方法』またはP5『死線状態での配線経路の探査方法』で実施してください。
- 2) 探査しようとする配線路に探査信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探査できません。  
ノイズの発生原因を取除いてから探査してください。
- 3) 電線と受信器の距離が20cm以上離れていると測定できません。  
P6『2回路を使用して探査する方法』またはP5『死線状態での配線経路の探査方法』で実施してください。

②受信器の電源スイッチを押した時、電源チェックランプの点灯を確認してください。

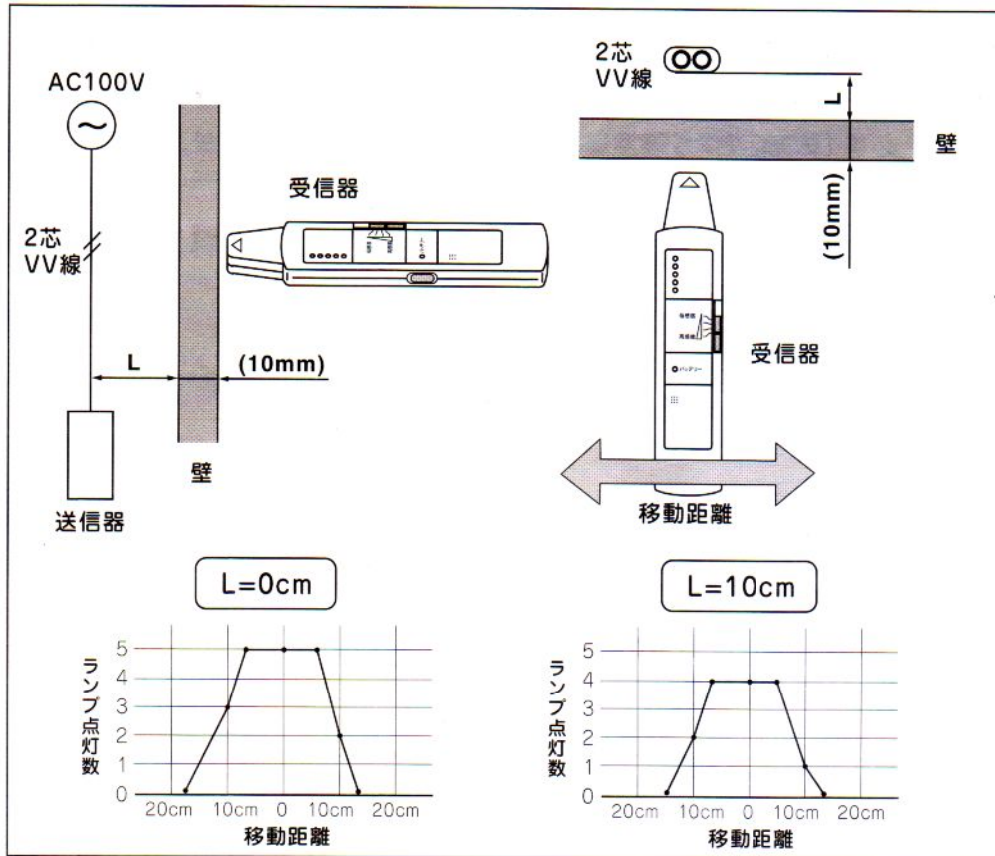
- 測定方法 ● 受信器の感度切替スイッチを『高感度』に設定し、電源スイッチを押しながら送信器を接続した位置から電線が埋められていると思われる位置に近づけ、ゆっくりと動かしてください。
- 判定 ● 受信器を回転させながら最も多くのランプが点滅する所を確認しながら探査してください。  
● 判定用ランプが最も多く点滅した場所に配線があります。
- 注意 ● この測定は非常に高感度の設定で実施しますので測定回路の近くにノイズを発生する機器があると測定できません。ノイズの発生原因を取り除いてから探査してください。  
● ノイズを発生する機器がある場合、判定用ランプが点灯したままでブザー（ピーピー）が鳴ります。  
探査信号とまちがえないようにしてください。

該当ブレーカに探査信号よりも大きいノイズが乗っている場合は探査できません。

ノイズの発生原因を取除いてから探査してください。

- ノイズを発生するおもな機器……インバータ・コピー機など

## ■測定結果（例）



## ■仕様

### ●送信器(BT41001)

使用電圧範囲	AC15~264V (50/60Hz) DC15~264V
探査信号周波数	5kHz
外形寸法	100×45×25 (mm)
質量(重量)	100g

### ●受信器(BT41002)

検出方式	信号電流による磁束検出
探査感度	切替スイッチによる4段切替
出力	ブザー音 ランプ点灯表示
電池	9Vマンガン電池(9Vアルカリ電池も使用可能)
電池寿命	連続使用で8時間(20℃)
外形寸法	210×45×25 (mm)
質量(重量)	130g

## ■アフターサービス

### 1.保証書（裏表紙をご覧ください。）

必ず「販売店名、引き渡し日」などの記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みのうえ大切に保管してください。

### 2.保証期間中に修理を依頼される場合

保証期間は、お引渡し日から1年間です。  
異常のある時はお買い上げ頂きました販売店にご相談ください。  
保証書の記載内容により販売店が修理します。

**修理を依頼される時にご連絡していただきたい内容。**

- ご住所・お名前・電話番号
- 製品名・品番・お引き渡し日
- 故障または異常の内容
- 訪問ご希望日

### 3.保証期間経過後修理を依頼される場合

販売店にまずご相談ください。  
修理によって製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理致します。

### 4.補修用性能部品の最低保有期間

配線チェッカーの製造打切後、補修用性能部品を最低7年間保有しています。  
性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

### 5.アフターサービスについてのお問い合わせ

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明の点は販売店、または最寄りの松下電工お客様ご相談窓口（別紙一覧表ご参照）にご相談ください。